

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成28年(2016年)7月7日(木)18時00分~20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	5人
公開しなかった理由			
出席者	委員	舟岡 直子 大野 俊介 荻原 まゆみ 松田 美和子 岸本 岳文 渥美 公秀 瀬戸口 誠 樋口 名子	
	事務局	北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 島津岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 河本岡町図書館主査 荒木南部地域連携センター長	
	その他		
議題	1 委員の紹介 2 (仮称)南部コラボにおける図書館機能について 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 平成28年度（2016年度）第1回図書館協議会

日時：平成28年（2016年）7月7日（木）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 舟岡 大野 荻原 松田 岸本（委員長） 渥美 瀬戸口 樋口

事務局 北風 須藤 虎杖 松井 島津 山根 永島 河本 荒木

開会

資料確認

委員紹介

事務局職員の紹介

### ●委員長

ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則として審議会を公開しており、傍聴については10人を定員にしている。定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、報告させていただく。

次に前回会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったもので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただく。議題は（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能についてである。事務局より説明を願う。

### ●事務局

今年度の図書館協議会で、（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能について意見を頂きたいと考えている。（仮称）南部コラボセンターについては、地域の活性化や地域課題の解決を目指して南部における拠点施設としての役割を担うことが期待されている。平成26年度より（仮称）南部コラボセンター基本構想をもとに市民協働部南部地域連携センターが中心となり意見情報交換会や南部地域活性化ラウンドテーブルにおいて子育て支援機能や就労支援センター機能等、各種の機能の検討や意見交換を行ってきた。

また、庄内地域が抱える教育の諸課題解決を目指す庄内地域における「魅力ある学校」づくり構想については、学校教育課を中心に地域での説明会やワークショップ等を重ねながら並行して進められている。

現段階において（仮称）南部コラボセンターの施設規模や概要など具体的なことは決定していないが、平成30年度に予定されている基本設計策定を見据え、南部地域の図書館として必要とされる図書館機能について本協議会に諮問する。

今年度、協議会は3回の開催を予定。今から（仮称）南部コラボセンターについて基本的考え方や現在の進捗状況および南部地域のデータを説明する。今回と次回で議論を深めてもらい、出された意見をふまえ事務局で整理したものを3回目までに各委員に提示させていただく。最終的には協議会の提言としてお示しただけだと考えている。

#### ●委員長

本協議会に諮問として出されたものは、最終的に提言として取りまとめるということをお願いする。

まず、（仮称）南部コラボセンターの進捗状況を事務局から説明を願う。

#### ●事務局

緑色資料の概要版と書かれた基本構想のパンフレットで説明させていただく。平成26年3月に策定した『（仮称）南部コラボセンター基本構想』の目的としては、市南部地域活性化に向けて公共施設、教育環境再編にスポットを当て取りまとめたものである。構想の内容は、教育・子育て・就労などの生活面における課題と少子・高齢化によるまちの活力に関する課題を改善することとともに魅力ある取組みを街全体に広げていくことを目指す南部地域活性化の拠点が（仮称）南部コラボセンターになるが、その機能や在り方を取りまとめたものである。

基本構想については5点の基本方針を上げている。1点目、歴史文化、商工業等の南部の資源を街の魅力として捉え、ブランド化して発信していくこと。

2点目、地域住民が「いきいきと」「充実した」生活ができるよう市民サービスのネットワークの整備と連携を図っていくこと。3点目、教育・子育て支援の拠点施設として地域の未来を担う子どもたちを地域全体で育むしくみをつくること。4点目、市有施設の機能を複合化して総合的機能を備えた市民サービスの拠点を形成していくこと。5点目、南部地域活性化のセンターとしての機能を補完するサテライトを学校などの公共施設に整備しネットワーク化することで、より南部地域の活性化を図り、さらに教育委員会が進める魅力ある学校づくりと連携し学校と地域で教育環境の向上を進めていくこと。

これまでも、基本構想作成にむけ様々な機会を通じ市民から意見をもらい、作成後も意見情報交換会やラウンドテーブル、市民フォーラムを通じこの（仮称）南部コラボセンターに必要な機能や担い手等の検討を行ってきた。

それではこの基本構想の特徴である（仮称）南部コラボセンターネットワークとその拠点施設となる（仮称）南部コラボセンターに必要な機能について説明する。概要版にある（仮称）南部コラボセンターネットワーク図にあるように、セ

ンターを中心として学校等も含めた様々な公共施設を活用しサテライトを配置することで緊密な連携の下、南部地域の活性化に向け取組みを広げていく。

赤い太線で表現しているものは南部コラボセンターが実現していく為に必要な5つの施設機能で、それを連携融合させることで相乗効果を狙っている。

1点目、生活・学習等支援拠点機能について。教育・福祉等市民一人一人が生きていくための支援機能で、想定している機能は、保育室・プレイパーク・相談室・青少年ラウンジ等である。さらにライフステージやニーズに応じ就労支援センター機能・キャリアセンター機能・高齢者福祉施設機能も想定している。

2点目の交流拠点機能は、図書館や公民館等を更に拡充するイメージで人と人との出会い、つながりを生み出す場、人と情報をつなぐ場を提供する機能を考えている。

3点目は地域ブランド創造拠点機能で、大阪音楽大学に代表される音楽あふれる街や物づくり、歴史文化等、南部地域には様々な魅力がある。地域資源を生かした地域ブランドを創造する拠点機能を想定している。

4点目の市民活動コーディネート機能は、地域の活性化や課題解決に向けたボランティア活動等、市民の街づくり活動を支援していく機能である。

5点目の市民サービス拠点機能として、現在の庄内出張所の機能を想定している。他にも多目的スペース、交流スペースも設ける予定。

(仮称)南部コラボセンター建設地については、教育委員会の小中学校の再編と連動し、第六中学校の敷地を候補地として選定している。センター建設については平成30年度に基本設計を予定し、開設については平成30年代前半を予定している。

最後にポータルサイト「マチじゅうコラボ」を紹介する。(仮称)南部コラボセンターを市民に周知徹底するためこのサイトを立ち上げ、今年と来年の2年間で情報発信力の強化あるいは紙媒体や様々なツールを使ってセンター建設の機運を醸成していく。

## ●委員長

今の概要の説明について、質問ありますか？ご感想も含めて。

## ●委員

(仮称)南部コラボセンター構想は市民と一緒に進めるのはとてもいいことである。ただ、交流拠点機能のところに図書館が入っているのに違和感がある、図書館には情報発信や学習支援の機能も持ち合わせているので、生活・学習等支援拠点機能としても捉える必要があると考える。

## ●委員

意見交換会等で南部地域の住民からの(仮称)南部コラボセンターへの意見を

まとめているのなら聞きたい。

#### ●事務局

地域住民の期待はいただいていると感じるが、まだまだ（仮称）南部コラボセンター構想が住民の隅々まで行き届いていない部分もあり、ポータルサイトの充実や紙媒体を通じて、なぜ（仮称）南部コラボセンターを建設するのか、その目的や内容について地域住民に知って貰う取組みを今後進めていきたい。

#### ●委員

（仮称）南部コラボセンターについて具体的なイメージが出来ない段階だが、このパンフレットを見たところ、とりあえず南部地域の公共資源をただ集めたような感じがしている。これが本当にパンフレットにある機能や施設構成にしていくなために核になる部分がないと、機能がバラバラにある様な感じで本当に有機的に機能できるのかというのが率直な感想である。それをつないでいくのが図書館だと思うので、図書館の持つ色々な機能を中心に据えてキャリアセンターであったり、市民活動であったり出来るようになれば、有機的に機能するのではないかと考える。その点をよく考えないと「コラボ」という意味が住民に伝わらないと感じた。

#### ●委員

南部地域にある認定こども園の園長だが、南部地域の実態として色々な背景を持った子どもがいる。ひとり親家庭や外国籍および生活保護世帯の方などである。その割合が40%を超えると家庭支援という職員が一人配置される。豊中市の認定こども園26園の内9園がその対象で、その内7園が南部地域にある。そんな環境の中で、子どもたちが本の読み聞かせや本と出合う機会も減りがちで、学年が上がるにつれ学習内容も難しくなり学習意欲が低下していく傾向が見られるということが、こども園側から見た現状だ。

やはり図書館の生活・学習等支援拠点機能は非常に大切で、子どもたちにとって本が身近にあり図書館に行くことが楽しいとか、いろんな本と出会い子どもたちが豊かになっていく。そういうことを大切にしていきたいと、南部地域の子どもたちを見て感じている。

#### ●委員

南部地域の子どもの話の話を聞いて、（仮称）南部コラボセンターは千里コラボとは性格が違い、生活に困難を抱えた方々の支援のための側面も合わせ持つものでもあるとわかった。積極的に施設に関われない方々が多くいる地域に機能有りきではない根本的な施設が必要ではないかと思った。

#### ●委員

この概要では、図書館は交流拠点機能を担うとあるが、図書館ではビジネス支援あるいは課題解決支援等で、既に図書館が行なっているレフェラルサービスで他機関との連携がある程度できていると思う。いままでも委員の方々の指摘もあるとおり図書館にとって学習支援機能は非常に重要な機能なので、交流拠点機能を強調するとそれが疎かになりはしないか心配である。既に持っているサービスの中で図書館機能を整理していくことで、図書館が持つ資源を最大限生かしていく位置づけを考えていただければと思う。

## ●委員

単純にわかりにくい所が3点ほどある。1点目は、パンフレットにあるマップの点線の意味ですが校区を表しているのですか。それから2点目は南部地域の住民の方々は、自分達が南部地域に住んでいると考えているのですか。つまり、南部地域という言い方が、特定の地域名として理解されているかどうか。3点目はサテライト機能が非常に重要になるが、特にどのようなサービスがあるのかこの資料ではあまり明確ではないと思う。それと私の専門である災害時の拠点という視点は非常に大事だと考える。将来のコラボセンター建設にあたり建物の耐震性や災害時の災害弱者の対策などは、このパンフレットを見ると後ろの方に災害時拠点のことが触れられているだけなので、これについては住民の目線が必要だと感じた。それから、熊本地震で困った点は公共施設の運営主体を指定管理になったことで、平常時と緊急時の運営主体がどうなるのかという問題も出てきている。

## ●事務局

まず一点目、地図の赤と青の点線ですが、赤の点線が現在の小学校区の表記で、南部地域は現在8小学校区。青が中学校区で、4中学校区で構成されている。

それから南部地域の住民は自分達が南部地域に住んでいると意識されているのかとの質問であるが、歴史的には昭和30年に当時の豊中市と旧庄内町が合併したこともあり、庄内地域の住民は庄内地域に住んでいるという意識が強い。庄内地域以外の南部地域に住む住民たとえば高川や豊南については、旧庄内町ではないこともあり、その住民は高川・豊南地域に住んでいるという認識である。行政あるいは市の施策上は、名神高速道路以南を南部地域と呼んでいる。南部コラボセンターのこともあり市南部地域としてPRしている。

サテライトの件は、高川図書館がその事例の一つと考えている。高川図書館では既に南部コラボで予定している子育て関係事業をモデル事業として、また学習支援事業—小中学生を対象に教員志望の大学生ボランティアによる学習支援—といった事業をサテライトと結び付けて高川図書館で試行している。

最後の防災機能ですが、現行の防災拠点というのは小学校を拠点として防災計画が作られている、それらを踏襲しながら小学校とも連携して南部コラボセンタ

一を防災拠点として熊本地震の事例も参考にしながら必要な設備について今後検討していく。

### ●委員長

委員の方々の意見を聞くと、一つは様々な機能がコラボレーションしていく仕組みがまだよく見えないということと、図書館としての機能をこのコラボの中でどう位置づけていくのかということになると考えるが、図書館としての方針を積極的に出していくべきではないだろうか。そのあたりを議論していくのが重要になってくると思う。

概要に「居場所」とあるが、図書館がなぜ「居場所」と言われるのかというと、そこには誰でも自分が好きな本や読みたい本がいつ行ってもあることが「居場所」と言われる所以であろう。施設があるから「居場所」なのではなく誰が行っても好きな本が発見できる蔵書があることで、初めて「居場所」と言えるのではないか。子どもたちにとってそこが「居場所」となるのはそれぞれの子どもの発達段階に応じ自分なりの本が見つけられる、だから図書館に行っても楽しい「居場所」なるのだと思う。「居場所」というのは物理的な場所ではなく「図書館の働き」であるということを理解しておくことが大事だ。

先程委員の言われたレフェラルサービスですが、図書館にはレファレンス業務がありますが、図書館の資料で応えられないとき、地域の資源を生かすということで、なぜ図書館がそれをするのかというと、本だけを集めているのではなく、地域の情報を収集し情報資源をデータベース化し整理する、これは今の図書館の得意な仕事だからです。色々な地域の情報を収集整理し地域の住民にフィードバックする、これがコラボにおける図書館の核になる大事な仕事だと思う。(仮称)南部コラボセンターについての追加説明を事務局にお願いします。

### ●事務局

(仮称)南部コラボセンターについては、『庄内地域における「魅力ある学校」づくり構想』と連動して、地域内小学校6校、中学校3校を統合・再編の中で第六中学校跡地を活用することとなっている。詳細については、資料3を参照していただきたい。

平成26年度から27年度にかけて南部地域連携センター主催で各機能について意見情報交換会やラウンドテーブルが実施された。ここでどんな意見が出たのか報告する。昨年度、1回目と2回目で高齢者に必要な機能について意見交換がされた。1回目は認知症についての意見、銭湯の数の減少などが意見交換され、高齢者の抱える課題を考慮しながらコラボセンターに求められる機能について議論した。そこでは、高齢者の元気を引き出す取組みであるとか、高齢者が気楽に集まることの出来る場所が必要という意見、あるいは元気な高齢者には地域の担い手として活躍してもらう必要性などの意見もあった。さらに2回目で、支援が必

要な高齢者の見守りであるとか、地域のネットワーク作り、情報発信の現状を確認した上でコラボセンターにおけるハード・ソフト両面での議論を深め、支援が必要な方を地域から発見し見守るといった地域での見守りシステムというものを皆さんで討議した。

続いて、10月・11月と連続でキャリアセンター機能について意見情報交換会があり、まず南部地域における産業の状況とか、子どもたちの学習課題を踏まえ、キャリア教育の必要性について議論があった。2回目で子どもの家庭や現状を踏まえて学校からどのように就労につないでいくのか、という議論があり、そのためには企業・地域・学校をつなぐコーディネータ的存在が必要なのではないかといった意見や、たとえば仕事を用意し雇用した人材に仕事をマッチングさせるような仕事の人材センターを設けるといったアイデアもいただいた。

今年2月には市民活動、NPO活動支援機能ということで、豊中で活動しているNPOや地域のグループが参加し、子どもと大人がつながる場所が無いという南部地域の課題を踏まえ、市民活動団体に関する情報共有をする場所であり、居場所作り・相談拠点機能等がコラボセンターに期待される機能として提案された。

また、昨年9月には「図書館の未来・魅力ある図書館づくり」というテーマで市民も参加自由のラウンドテーブルという形で実施し、最初にモデル的に塩尻の「えんぱーく」あるいは「武蔵野プレイス」の状況を簡単に報告した上で、図書館と一緒に活動していただいている子ども文庫の方、市民ボランティアの方、図書館職員もともに参加し、コラボセンターに図書館ができれば可能な活動について、ハード・ソフト両面からワークショップを実施した。その中で来てもらう、居てもらおう、図書館が地域へ出掛けていく、図書館の機能プラスアルファなどを「つながる」というキーワードで議論を深めることができた。コンセプトとして外国人、あるいは中高生、図書館にあまり来館できない方も含め誰もが集まることが出来て、利用者により様々な利用法のある図書館が欲しいという意見や、実際に来館された際の仕掛けの有り様、会話可能な交流スペースと静かなスペースの両方が必要だという意見、魅力ある資料やインターネットと紙の両方の情報発信が必要だという意見なども出た。

雑駁な説明ですが市民と行政各部署双方で議論を深められたことをご理解いただければと思う。

資料5の、『豊中市「データブック」2015<地域編>』をご覧いただきたい。南部地域に関する地域特性、人口動態、市民意識調査の結果がコンパクトにまとめられており、基礎的資料として参考になるので提示させていただいた。2ページに南部地域の特性で、文化・子育て・防犯・緑・交通利便性等多くの面で満足している方の割合が他地域と比較して少なく、街並みに愛着誇りを感じている方の割合も低く、市の政策も他地域と比較し重要度が低いという市民意識調査結果となっている。このページの一番下、地域別の移動・定住要因という項目があり、



南部地域を見ると、転入者は親戚・知り合いとのつながりから転入してきた方が多く、転居者については、集合、一戸建てに関わらず広さで不満がある方が多い。評価としては買い物の利便性への評価が高く、景観、静けさ等、周辺環境への評価が比較的低い。こういった結果となっている。

続いて、71 ページに南部地域の概要がコンパクトにまとめられ、人口・世帯数は減少傾向、年代構成は全市と比べ15歳未満が低く65歳以上が高い。全市に比べ転入率が低く、新しい人口の流入は進んでいないことがわかる。今後も人口は減少見込み。産業は全市的シェアで電気・ガス・熱供給・水道業・学術研究、専門・技術サービス業、建築業が多い。建物は併用住宅の比率が比較的高く住宅系の比率が高い。昭和56年以降の建物が比較的少なく、老朽化した建物が多い。道路状況は4m未満道路比率が高く、密集した市街地を形成している。公共施設については本地域に比較的集中して建設された経過もあり、昭和40年代までに建設された施設が多く、今後更新等が課題となる。同じページの下部に市民意識調査結果をグラフ化しているが、市平均値をゼロ値として、南部地域を肯定的に見る結果が比較的少なかった。

報告は以上となる。

#### ●委員長

南部地域の概要について追加の説明を受けたが、何か意見は。

#### ●委員

やはり南部地域住民の意識を具体的に見た場合に、南部コラボにはきちっとしたものが必要だと痛切に感じた。人口構成でも15歳未満が低く65歳以上が高いのは地域活性化にとって他地域とは違う観点でこの地域を捉えていかないと成功しないだろうと思う。それと子どもたちの学習の面では、勉学は生きていくのに直接必要ではないという考えに陥るのを防ぎ、心の豊かな人間、豊かな大人になるために勉学はあるということを理解してもらおう環境を整えていく施設でもあると思うので努力してほしい。そして、銭湯が減少しているとの話しであったが、生活に必要なものは多々あるが、銭湯に行く機会のほぼ無いものとしては見落としがちな視点だと思った。

#### ●委員

私は豊中市の教師をずっとやってきたが、南部地域の課題というのは見聞きするだけで、南部の学校で働いたことがないが、南部コラボの話聞いたときに、いいなと感じ、新しいものを作るのは素敵だなと思った。新しいことをやろうとする時、私は大きな夢を描く。コラボの話聞いた時、新しい学校が出来ることが羨ましいなと感じた。なぜかと言うと、困難な点は色々出てくるであろうが、学校の中で図書館に関わることをしたいので、学校教育を充実させるためにどう

学校図書館を機能させるかを考える。公共図書館も当然関わって来ることだが、図書の時間に公共図書館を訪ね授業に関する事を調べる。こういうことが日常になれば、子どもたちが成人しても図書館に親しんでいけるのではないか、図書館の担い手が育つのではないかと考える。公共図書館では様々な利用者が居るので公共マナーも学べる利点もある、そういうことが日常的に実践できる、そういう機能も図書館が果していく。そういう夢を描いている。

しかし、この【仮称】南部コラボセンター施設機能（案）の資料には図書館の表記が少なく数箇所である。もっと図書館の活用をと考えた時に、概要版のところでは赤い所に図書館が欲しいし、サテライト機能は小学校とか学習拠点の所にしかないように見えるので、図書館にも引っ張って欲しいなと感じた。

話は変わるが、実現は別にして、図書館としてどう考えているのか聞きたい。

#### ●委員

私も学校関係者なので身近な図書館が学校図書館になる。中学も公共図書館の利用が中心になればと考えている。授業だけでなくクラブ活動でも技術を向上させるためなどで調べたいことがあるはずで、アメリカなどでは、引越しするとまず地域の図書館に行き地域情報や生活情報を調べるという話を聞いたことある。そういった情報が集まっているのが地域の図書館ですから、そういう点から考えるとやはり図書館が核になって地域サービスや色々な機能がつながっていく、こういうイメージでコラボセンターができればと思っている。ユネスコの公共図書館宣言を読むと、コラボセンターとつながるところも見えてきて、やはり図書館が中心であって欲しいなと感じている。就労支援、高齢者支援、学習支援等も最後は図書館に戻ってきて、自分達のことを調べたり考えたりして自分達の住んでいる所へ戻っていく。こういうイメージがコラボなのかなという意見を持った。

#### ●委員

先程の南部地域の現状の話聞いて思うのですが、こども園の近くに公園があり、よく学校帰りの子どもたちが遊んでいる。図書館もそんな感覚で学校帰りに立ち寄れる、ほっとできる敷居の低い図書館であって欲しいと思っている。

#### ●委員

概要版で示された南部地域の15歳未満と65歳以上の人口比率を見つつ、中高生が気軽に寄れる施設に南部コラボをするということだが、そもそも近くに中学校・高校はあるのか。15歳未満の比率を上げたいのなら転入率を上げるしかないが、そのためにはコラボ構想も含め全体的な魅力を打ち出していくしかないと思う。

#### ●委員

若い世代はインターネットに慣れ親しんでいる。ネットはもともと同質性の高い世界で、特に若い世代は同世代で集まる傾向が強い。また、検索エンジン等でブラウジングするところも偏りがあり、若い世代の特徴である興味をひくものにしか目を向けない傾向がある。無関心なものは排除して生活していくことが多いのかなと思う。

コラボセンターで想定していることの一つは世代間交流だと思うが、たとえば自分と違う上の世代との交流であれば、図書館の持つ資源を使うことも考えられる。身近な自分の生活と教科書の勉強・学習との関連性がなかなか理解できない所があるが、図書館の資料を利用しながら大人世代と高校生や大学生などが図書館で集まって交わることで、比較的その部分も理解しやすくなるのではという漠然とした感想を持った。

#### ●委員

「データブック」の分析で南部地域の特性や問題点が明確になっていると思うが、千里コラボと徹底して比較して南部は千里と全く違うやり方を探る。それでいいのではないか。具体的ではないが、家の商売、学習環境、学校に居る時間の重要性などすべてが異なる中で、図書館の関わる部分についても実際に南部地域に勤務している教員の話聞きながら進めていけばいいのかなと思っている。

#### ●委員長

先ほど委員からの質問にあった図書館の考え方を説明してください。

#### ●事務局

図書館機能を生かして、資料・情報を提供し、人と情報をつなぎ人と人をつなぐスタンスは変わりません。様々なシーンで図書館が役に立ちたい、それは実利的な意味合いだけではなく、年齢・属性にとらわれず誰でもいつでも行くことができる図書館があるということで、地域住民に「わが図書館」と思ってもらえる図書館であり、加えて南部コラボの図書館ということで、色々なところと連携したサービスというものが既設の施設以上に重要だと考えている。現在も既に図書館単独の活動は少なく市民との協働事業や他館との連携、また他機関との連携、ビジネス支援や医療健康情報の提供等、ここ数年間進んできたと感じている。それを南部コラボ、サテライトを含めて具現化していき住民に役立つ図書館であればと思っている。

#### ●委員長

図書館は間口の広い施設であるが、ある意味図書館で出来る事というのは限られていると考えていて、資料や情報の必要な人への提供と地域のその分野のスペシャリストにつないでいくことが図書館の仕事だと思っている。当然スペシャリ

ストが動くことで安心した対応が期待できる。そこにどうつないでいくかが本来の図書館のメインの役割であるといい。

結構図書館は様々なことをやっていて、本来行政がやるべきことを図書館がやっているような面もあり、実際アメリカなんかでは、図書館にはいろんな人が来るから様々なサービスを行っている。子どもの宿題支援なんかもやっているが、宿題をやる子どもとそれを支援するものをつなぐのが、図書館の本来の仕事だと思っている。従って南部コラボの中で図書館が前面にでるのは、あまり図書館にとっていいものにはならないのではないかと考えている。図書館に責任を持って本当に出来る事は何なのか、それを提言の形で整理したものを出していけば見えてくるのではと思う。

本日の議論も含め次回までに考えていただければと考えている。

それでは、次第のその他について事務局から説明願います。

## ●事務局

本日の配布資料の名誉市民山田洋次ライブラリーですが、本市名誉市民称号贈呈決定の豊中市出身の映画監督・脚本家山田洋次氏の記念ライブラリーを岡町図書館内に開設することになった。岡町が氏の生家のあるところなので、岡町図書館となっている。内容は、監督作品のDVDと関連本の収集で、開始時期は9月1日を予定している。9月には開設記念として講演会も予定。

資料6はグランドデザイン進捗状況報告資料になっている。

紙資料はなく口頭での報告になるが、南部コラボのサテライトの位置づけである高川図書館は、9月より内部のレイアウト変更を予定。並行して駐車場の工事・メンテナンスがある。従って9月19日から30日まで休館となる。

それから庄内図書館が事務局となっている市民協働事業の「ええやん！しょうない」という瓦版を配布させていただいた。年一回の発行で、今回は臨時増刊として刊行。夏休みに向けて子どもに関する情報発信ということで、意見情報交換会やラウンドテーブルでも必要な人に必要な情報を届けるかが課題となっていたが、今回は夏休み前に子どもに関する情報を発信するというで作成した。内容として、子ども食堂の案内とか、外国人親子向け高校進学相談会（府立高校の入試制度についての相談会で通訳も手配）など。豊中市立庄内図書館では市民ボランティアにより蔵書の廃棄本を販売することで、その売り上げを地域活性に使っているが、この進学相談では通訳の謝礼として活用した。

また資料8は、「音楽あふれるまち」をめざした取組、大阪音楽大学や日本センチュリー交響楽団等との連携協力や庄内REKとの協働による創造性の高い事業開催が評価され、文化庁長官表彰として「文化芸術創造都市部門」で豊中市が府内初の被表彰都市に決定された情報となる。

## ●委員長

進捗状況一覧表には達成度等が評価されているが説明は必要か？

●事務局

概ね昨年と同様という形で、27年度末までに現場の分館長、地域館副館長が中心となっている会議があり、今年度の振り返りを行い次年度はどれを重点的に取り組んでいくのかを決めている。達成度に関しても、達成できた・おおむね達成できた・一部達成できた・達成できていない、で表している。また重要度と達成度は関係なく、重要度は各年の状況を勘案して変化すると明示している。

●委員長

まだ時間がありますので、南部コラボへの意見などは？

●委員

建物については、六中が南部コラボになるということですが、母校が無くなるという結構デリケートな問題についてスムーズに進めていくことができるのか、その点はどうか。

●事務局

まだ当事者からの意見を受ける機会がないのではっきりとは言えないが、色々な意見はあると考えている。ただ、庄内地域における魅力ある学校づくりの大きな目的は、このまま少子化が進み一学年一クラスの編成が出来ないような事態が将来的に現実味を帯びている、複式学級ということも将来的に見込まれると学校教育課から報告もあり、統廃合を行って小中一貫という仕組みをとる中で教育環境を向上させていくことと考えている。母校が無くなるというセンシティブなことでもありますが、この統廃合をケアも含めて子どもたちのために前向きなものとして考えていきたい。

●委員

住民は前向きなものとして受け入れているのか？

●事務局

その件に関しては、合意形成の面はあくまでもこれからで、これから丁寧に住民に説明して行こうと考えている。何度も丁寧に説明を重ねながら理解を得ながら精度を高めて、当然あるデメリットへのカバーも含めて前向きに教育環境の向上を図っていきたいと考えている。

●委員

小中一貫だと、いじめられた子は九年間いじめられる可能性もある。そのケアはしっかりお願いします

●事務局

わかりました。

●委員長

他にありますか？

●委員

話を聞きながら、現実には様々難しいことはあるだろうなど、今感じています。2年後に基本設計からの建設案ですが多くの人の理解を得ることの努力は怠ってはいけないと思う。

●委員長

他に何か？

●委員

概要版の2番や4番の一体感ある「複合施設」や魅力ある「専門施設」等が書かれていて、デザインも面白くしたいという意気込みも感じて楽しみだが、2年後に基本設計になっているが、進捗状況はどうなっているのか。

●事務局

結論から言うと、これからの話になる。

●委員長

建設に関しては仕様書を何処まできちんと書くかという問題も出てくるし、図書館から出された仕様書、南部コラボからの仕様書、それぞれの求めるものを最終的に調節していくのは非常に難しいところだと思う。

●委員

このデザインを面白いものにするという事は、大げさに言えば転入率の改善にもつながるかもしれないので、大切にしたい。

●委員

南部地域の特性などの話を聞いて思うことだが、海外の図書館サービスなどでは、情報を集約し届ける中で社会的マイノリティにサービスする際には、その生活に即した形でニーズ等を引き出してからでないと、図書館を日常利用する人たちと提供者側が考えている部分のずれが見られることがある。極端な話だが思想信条の部分で図書館側が思うところと違う可能性もありえる。ニーズをうまく引

き出して実態に則した形のサービス提供をお願いしたい。

●委員長

図書館側から市民の方に出かけていく活動というのはこれからより重要になるだろう。図書館には見えないことを把握する、特に南部コラボでは重要になってくるだろう。

●委員

非常に単純に言えば、目立つ建物を建てたら利用者は来てくれると思う。校区再編や六中の廃校の問題等非常に困難がつきまとう話であると思うが、スケジュールに平成30年に基本設計となっているが、詳細はこれからというのに少し驚いた。また、住民の実際のアイデンティと、南部地域という言い方との認識のずれも気になったところである。(仮称)南部コラボセンターのネットワーク構想の中でのサテライト機能とは、既存のものを使っているだけなら今までと変わらないのではと感じた。結局、最初にお聞きした3点の疑問は解消できないままである。

●委員長

それでは第1回目を閉会としますが、次回以降協議会において議論が深まるよう、事務局は随時資料提供していただくようお願いする。委員の皆様も必要な資料や確認事項があれば事務局に遠慮なく申し出てほしい。

●事務局

次回第2回の日程は、10月末から11月を予定しています。委員の皆様と日程調整させていただきますので、よろしくお願ひします。

●委員長

ではこれで閉会とします。ありがとうございました。